

この学校にわたしたち

2022. 06. 24 N018

世界の中の子どもたち



今月1日、写真家の田沼 武能（たけよし）という人が93歳でなくなったと報道されていました。有名な写真家であるのですが私は死去の報道によって初めて知りました。田村氏は当初注文写真家であった時、師匠から「頼まれ仕事ばかりでは自分の仕事は残らない」と指摘を

受け、自分の写真と向き合う姿勢を見つめなおしたそうです。この時の師匠の言葉は私たち自身も“自分の仕事を残すとは…”について考えてみなければならないと思いました。田村氏はこの師匠の言葉により、「世界の中の子どもたち」を撮るということを決めたそうです。“次世代の家族を作る子どもたちに住みよい地球を手渡していけるか”に真剣に取り組む時代がきたと感じた田沼氏は、写真でそのことを伝えようと世界中をまわり、写真に撮り続けたそうです。

連日、ウクライナとロシアのことが報道され、家族が亡くなり、子どもたちの心に深い傷を受けていることを伝えています。田沼氏と同じ思いで写真家として活動をしている人は世界中にたくさんいることと思います。戦争ほど悲惨なものはありません。戦争ほど残酷なものはありません。未来のために彼らがそのような写真を撮り続けなくてもよいような時代を作っていかなければなりません。「すべての人を尊重せよ。しかし、子どもの場合は普通のその何倍も尊重し、その魂の純粋さをそこなわないように努めよ」とはトルストイの言葉です。この言葉を心に刻み、教育者として“自分の仕事を残す”とは？について田沼氏のように問い直してみたいと思いました。（写真はイメージです）

授業参観にご参加有難うございました！

あいにくの天候の中、人権授業参観に多数ご参加いただき有難うございました。1年、2年、3・4年、5・6年と学年ごとに題材を選んで授業を行いました。子どもたちはいつもよりほんの少しだけ緊張した様子でしたが、どの子も一生懸命に話を聞き、考えていました。今日の各学級の内容につきまして、ご家庭でお子様と人権について話す機会をもっていただけたら幸いです。



※引き続いての講演会についてもご参加有難うございました。